

V 自己資本の充実の状況

1. 自己資本の構成に関する事項

(単位:百万円)

項 目	29 年度		30 年度	
		経過措置 による 不算入額		経過措置 による 不算入額
コア資本に係る基礎項目				
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員資本の額	50,498		50,549	
うち、出資金及び資本準備金の額	22,384		22,171	
うち、再評価積立金の額	-		-	
うち、利益剰余金の額	28,830		29,085	
うち、外部流出予定額 (△)	432		424	
うち、上記以外に該当するものの額	△283		△283	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	27		33	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	27		33	
うち、適格引当金コア資本算入額	-		-	
適格旧資本調達手段のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の 45 パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	2,509		2,063	
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	53,035		52,647	
コア資本に係る調整項目				
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。)の額の合計額	196	49	235	-
うち、のれんに係るものの額	-	-	-	-
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライセンスに係るもの以外の額	196	49	235	-
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	-	-	-	-
適格引当金不足額	-	-	-	-
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-	-	-
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-	-	-
前払年金費用の額	-	-	-	-
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	-	-	-	-
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-	-	-
少数出資金金融機関等の対象普通出資等の額	-	-	-	-
特定項目に係る 10 パーセント基準超過額	-	-	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライセンスに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	-
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-	-	-
特定項目に係る 15 パーセント基準超過額	-	-	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライセンスにかかる無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	-
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-	-	-
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	196		235	
自己資本				
自己資本の額 ((イ)-(ロ)) (ハ)	52,839		52,411	

(単位:百万円)

項 目	29 年度		30 年度	
		経過措置 による 不算入額		経過措置 による 不算入額
リスク・アセット等				
信用リスク・アセットの額の合計額	298,085		312,612	
資産(オン・バランス)項目	298,085		312,612	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計	△4,442		9,172	
うち、他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置を用いて算出したリスク・アセットの額から経過措置を用いずに算出したリスク・アセットの額を控除した額(△)	△13,787		-	
うち、上記以外に該当するものの額	9,345		9,172	
オフ・バランス項目	-		-	
CVAリスク相当額を8パーセントで除して得た額	-		-	
中央生産機関関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	36,213		35,816	
信用リスク・アセット調整額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	-		-	
リスク・アセット等の額の合計額 (二)	334,298		348,429	
自己資本比率				
自己資本比率 ((ハ) / (二))	15.80%		15.04%	

(注1) 「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成 18 年金融庁・農水省告示第2号)に基づき算出しています。

(注2) 当JAは、信用リスク・アセット額の算出にあつては標準的手法、適格金融資産担保の適用については信用リスク削減手法の簡便手法を、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあつては基礎的手法を採用しています。

(注3) 当JAが有するすべての自己資本とリスクを対比して、自己資本比率を計算しています。

2. 自己資本の充実度に関する事項

信用リスクに対する所要自己資本の額および区分ごとの内訳

(単位:百万円)

信用リスク・アセット	29年度			30年度		
	エクスポージャーの 期末残高	リスク・ア セット額 a	所要自己 資本額 b=a×4%	エクスポージャーの 期末残高	リスク・ア セット額 a	所要自己 資本額 b=a×4%
我が国の中央政府及び中央銀行向け	15,959	-	-	11,432	-	-
我が国の地方公共団体向け	12,056	-	-	8,847	-	-
地方公共団体金融機構向け	-	-	-	-	-	-
我が国の政府関係機構向け	-	-	-	-	-	-
地方三公社向け	300	-	-	300	-	-
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	483,971	96,794	3,871	482,815	96,563	3,862
法人等向け	4,985	4,930	197	5,934	5,536	221
中小企業等向け及び個人向け	26,619	18,797	751	28,945	20,570	822
抵当権付住宅ローン	22,073	7,586	303	22,242	7,657	306
不動産取得等事業向け	3,684	3,616	144	2,966	2,899	115
3ヵ月以上延滞等	1,645	1,858	74	1,376	1,538	61
信用保証協会等保証付	89,356	8,858	354	93,314	9,255	370
共済約款貸付	603	-	-	5	-	-
出資等	18,943	18,929	757	19,454	19,454	778
他の金融機関等の対象資本調達手段	27,575	68,938	2,757	27,575	68,938	2,757
特定項目のうち調達項目に算入されないもの	-	-	-	-	-	-
リスク・ウェイトのみなし計算 (レックスルー方式)	12,000	-	-	24,000	-	-
リスク・ウェイトのみなし計算 (マンドート方式)	-	-	-	-	-	-
リスク・ウェイトのみなし計算 (蓋然性方式(250%))	-	-	-	-	-	-
リスク・ウェイトのみなし計算 (蓋然性方式(400%))	-	-	-	-	-	-
リスク・ウェイトのみなし計算 (フォールバック方式)	-	-	-	-	-	-
証券化	-	-	-	-	-	-
経過措置によりリスク・アセットの額に 算入・不算入となるもの	-	△4,442	△177	-	9,172	366
上記以外	76,552	72,217	2,888	75,075	71,024	2,840
標準的手法を適用するエクスポージャー 別計	796,326	298,085	11,923	804,288	312,612	12,504
CVAリスク相当額÷8%	-	-	-	-	-	-
中央清算機関関連エクスポージャー	-	-	-	-	-	-
信用リスク・アセットの額の合計額	796,326	298,085	11,923	804,288	312,612	12,504
オペレーショナル・リスクに対する 所要自己資本の額 <基礎的手法>		オペレーショナル・リ スク相当額を8%で 除して得た額 a	所要自己 資本額 b=a×4%		オペレーショナル・リ スク相当額を8%で 除して得た額 a	所要自己 資本額 b=a×4%
		36,213	1,448		35,816	1,432
所要自己資本額計		リスク・アセット等 (分母)計 a	所要自己 資本額 b=a×4%		リスク・アセット等 (分母)計 a	所要自己 資本額 b=a×4%
		334,298	13,371		348,429	13,937

- (注1) 「リスク・アセット額」の欄には、信用リスク削減効果適用後のリスク・アセット額をエクスポージャーの種類ごとに記載しています。
- (注2) 「エクスポージャー」とは、リスクにさらされている資産(オフ・バランスを含む)のことをいい、具体的には貸出金や有価証券等が該当します。
- (注3) 「3か月以上延滞等」とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞している債務者にかかるエクスポージャーおよび「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことです。
- (注4) 「出資等」とは、出資等エクスポージャー、重要な出資のエクスポージャーが該当します。
- (注5) 「経過措置によりリスク・アセットの額に算入・不算入となるもの」とは、他の金融機関等の対象資本調達手段、コア資本にかかる調整項目(無形固定資産、前払年金費用、繰延税金資産等)および土地再評価差額金にかかる経過措置により、リスク・アセットに算入したもの、不算入としたものが該当します。
- (注6) 「上記以外」には、貸出金、債券等を除く現金やその他の資産(固定資産等)が含まれています。
- (注7) 当JAでは、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたって、基礎的手法を採用しています。
- 〈オペレーショナル・リスク相当額8%で除して得た額の算出方法(基礎的手法)〉
- $$\frac{\text{(粗利益(正の値の場合に限る)} \times 15\%) \text{の直近3年間の合計額}}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

3. 信用リスクに関する事項

(1) 標準的手法に関する事項

当JAでは自己資本比率算出にかかる信用リスク・アセット額は告示に定める標準的手法により算出しています。また、信用リスク・アセットの算出にあたって、リスク・ウエイトの判定に当たり使用する格付等は次のとおりです。

(ア) リスク・ウエイトの判定に当たり使用する格付けは、以下の適格格付機関による依頼格付けのみ使用し、非依頼格付は使用しないこととしています。

適 格 格 付 機 関
株式会社格付投資情報センター(R&I)
株式会社日本格付研究所(JCR)
ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク(Moody's)
S&Pグローバル・レーティング(S&P)
フィッチレーティングスリミテッド(Fitch)

(注) 「リスク・ウエイト」とは、当該資産を保有するために必要な自己資本額を算出するための掛目のことです。

(イ) リスク・ウエイトの判定に当たり使用する適格格付機関の格付またはカントリー・リスク・スコアは、主に以下のとおりです。

エクスポージャー	適 格 格 付 機 関	カントリー・リスク・スコア
金融機関向けエクスポージャー		日本貿易保険
法人等向けエクスポージャー (長期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	
法人等向けエクスポージャー (短期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	

(2) 信用リスクに関するエクスポージャー(地域別,業種別,残存期間別)および3ヵ月以上延滞エクスポージャーの期末残高

(単位:百万円)

区 分	29 年度				30 年度				
	信用リスクに関するエクスポージャーの残高	うち 貸出金等	うち債券	3ヵ月以上延滞エクスポージャー	信用リスクに関するエクスポージャーの残高	うち 貸出金等	うち債券	3ヵ月以上延滞エクスポージャー	
国 内	796,326	154,001	22,389	1,645	804,288	161,408	13,849	1,376	
国 外	-	-	-	-	-	-	-	-	
地域別残高計	796,326	154,001	22,389	1,645	804,288	161,408	13,849	1,376	
法人	農 業	796	746	-	42	864	821	-	36
	林 業	0	-	-	-	0	-	-	-
	水 産 業	-	-	-	-	-	-	-	-
	製 造 業	14,185	2,638	-	-	14,826	2,782	-	-
	鉱 業	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設・不動産業	287	287	-	-	503	503	-	-
	電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	300	-	300	-
	運輸・通信業	327	9	300	-	730	103	610	-
	金融・保険業	512,904	-	-	-	511,813	-	100	-
	卸売・小売・飲食・サービス業	6,725	668	-	-	6,683	627	-	-
	日本国政府・地方公共団体	28,015	5,926	22,089	-	19,758	6,920	12,838	-
	上記以外	14,148	2,148	-	-	25,980	1,980	-	-
個人	142,765	141,575	-	1,471	148,174	147,667	-	1,231	
その他	76,169	-	-	-	74,650	1	-	-	
業種別残高計	796,326	154,001	22,389	1,514	804,288	161,408	13,849	1,267	
1年以下	430,352	5,560	5,328		471,166	5,503	-		
1年超3年以下	74,864	5,939	4,416		7,574	5,721	1,302		
3年超5年以下	7,651	6,851	799		6,510	6,302	208		
5年超7年以下	5,874	5,874	-		5,600	5,498	101		
7年超10年以下	20,730	8,430	300		35,969	10,263	1,705		
10年超	129,966	118,421	11,544		136,113	125,581	10,531		
期限の定めのないもの	126,887	2,923	-		141,353	2,536	-		
残存期間別残高計	796,326	154,001	22,389		804,288	161,408	13,849		

(注1) 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産(自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く)並びにオフ・バランス取引および派生商品取引の与信相当額を含みます。

(注2) 「3ヵ月以上延滞エクスポージャー」とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞しているエクスポージャーをいいます。

(注3) 「その他」には、ファンドのうち個々の資産の把握が困難な資産や固定資産等が該当します。

(3) 貸倒引当金の期末残高および期中の増減額

(単位:百万円)

区 分	29年度					30年度				
	期首 残高	期 中 増加額	期中減少額		期末 残高	期首 残高	期 中 増加額	期中減少額		期末 残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	33	27	-	33	27	27	33	-	27	33
個別貸倒引当金	610	608	31	579	608	608	385	8	438	546
合 計	643	635	31	612	635	635	419	8	465	580

(4) 業種別の個別貸倒引当金の期末残高・期中増減額および貸出金償却の額

(単位:百万円)

区 分	29年度						30年度					
	期首 残高	期 中 増加額	期中減少額		期末 残高	貸出金 償 却	期首 残高	期 中 増加額	期中減少額		期末 残高	貸出金 償 却
			目的使用	その他					目的使用	その他		
国 内	610	608	31	579	608	/	608	385	8	438	546	/
国 外	-	-	-	-	-	/	-	-	-	-	-	/
地域別計	610	608	31	579	608	/	608	385	8	438	546	/
法人	農 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	林 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	水 産 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	製 造 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鉱 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設・不動産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電気・ガス・熱 供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	運輸・通信業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	金融・保険業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	卸売・小売・飲 食・サービス業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上 記 以 外	71	8	9	61	8	-	8	13	0	8	13
個 人	539	599	21	517	599	-	599	371	8	429	533	-
業種別計	610	608	31	579	608	-	608	385	8	438	546	-

(5) 信用リスク削減効果勘案後の残高およびリスク・ウエイト 1250%を適用する残高

(単位:百万円)

信用リスク削減効果勘案後残高		29年度			30年度		
		格付あり	格付なし	計	格付あり	格付なし	計
信用リスク削減 効果 勘案 後 残高	リスク・ウエイト 0%	-	47,518	47,518	-	50,891	50,891
	リスク・ウエイト 2%	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウエイト 4%	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウエイト 10%	-	89,123	89,123	-	92,998	92,998
	リスク・ウエイト 20%	-	484,035	484,035	-	482,928	482,928
	リスク・ウエイト 35%	-	21,550	21,550	-	21,775	21,775
	リスク・ウエイト 50%	-	230	230	610	279	890
	リスク・ウエイト 75%	-	25,151	25,151	-	27,506	27,506
	リスク・ウエイト 100%	-	100,004	100,004	-	98,776	98,776
	リスク・ウエイト 150%	-	1,137	1,137	-	945	945
	リスク・ウエイト 200%	-	27,575	27,575	-	-	-
	リスク・ウエイト 250%	-	-	-	-	27,575	27,575
	その他	-	-	-	-	-	-
リスク・ウエイト 1250%		-	-	-	-	-	-
計		-	796,326	796,326	610	803,677	804,288

(注1) 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産(自己資本控除となるもの、リスク・ウエイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く)並びにオフ・バランス取引および派生商品取引の与信相当額を含みます。

(注2) 「格付あり」にはエクスポージャーのリスク・ウエイト判定において格付を使用しているもの、「格付なし」にはエクスポージャーのリスク・ウエイト判定において格付を使用していないものを記載しています。なお、格付は適格格付機関による依頼格付のみ使用しています。

(注3) 経過措置によってリスク・ウエイトを変更したエクスポージャーについては、経過措置適用後のリスク・ウエイトによって集計しています。また、経過措置によってリスク・アセットを算入したものについても集計の対象としています。

(注4) 1250%には、非同時決済取引にかかるもの、信用リスク削減手法として用いる保証またはクレジット・デリバティブの免責額にかかるもの、重要な出資にかかるエクスポージャーなどリスク・ウエイト 1250%を適用したエクスポージャーがあります。

4. 信用リスク削減手法に関する事項

(1) 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針および手続の概要

「信用リスク削減手法」とは、自己資本比率算出における信用リスク・アセット額の算出において、エクスポージャーに対して一定の要件を満たす担保や保証等が設定されている場合に、エクスポージャーのリスク・ウエイトに代えて、担保や保証人に対するリスク・ウエイトを適用するなど信用リスク・アセット額を軽減する方法です。

当JAでは、信用リスク削減手法を「自己資本比率算出要領」に定めています。

信用リスク削減手法として「適格金融資産担保」「保証」「貸出金と自組合貯金の相殺」を適用しています。

適格金融資産担保付取引とは、エクスポージャーの信用リスクの全部または一部が、取引相手または取引相手のために第三者が提供する適格金融資産担保によって削減されている取引をいいます。当JAでは、適格金融資産担保取引について信用リスク削減手法の簡便手法を用いています。

保証については、被保証債権の債務者よりも低いリスク・ウエイトが適用される中央政府等、我が国の地方公共団体、地方公営企業等金融機構、我が国の政府関係機関、外国の中央政府以外の公共部門、国際開発銀行、および金融機関または第一種金融商品取引業者、これら以外の主体で長期格付を付与しているものを適格保証人とし、エクスポージャーのうち適格保証人に保証された被保証部分について、被保証債権のリスク・ウエイトに代えて、保証人のリスク・ウエイトを適用しています。

貸出金と自組合貯金の相殺については、

- ① 取引相手の債務超過、破産手続開始の決定その他これらに類する事由にかかわらず、貸出金と自組合貯金の相殺が法的に有効であることを示す十分な根拠を有していること
- ② 同一の取引相手との間で相殺契約下にある貸出金と自組合貯金をいずれの時点においても特定することができること
- ③ 自組合貯金が継続されないリスクが監視および管理されていること
- ④ 貸出金と自組合貯金の相殺後の額が、監視および管理されていること条件をすべて満たす場合に、相殺契約下にある貸出金と自組合貯金の相殺後の額を信用リスク削減手法適用後のエクスポージャー額としています。

担保に関する評価および管理方針は、一定のルールのもと定期的に担保確認および評価の見直しを行っています。なお、主要な担保の種類は自組合貯金です。

(2) 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位:百万円)

区 分	29 年度		30 年度	
	適格金融 資産担保	保証	適格金融 資産担保	保証
地方公共団体金融機構向け	-	-	-	-
我が国の政府関係機関向け	-	-	-	-
地方三公社向け	-	300	-	300
金融機関向け及び第一種金商品取引業者向け	-	-	-	-
法人等向け	1	25	46	24
中小企業等向け及び個人向け	471	48	446	40
抵当権住宅ローン	-	437	-	370
不動産取得等事業向け	-	27	-	24
3ヵ月以上延滞等	-	38	1	17
証券化	-	-	-	-
中央清算機関関連	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
合 計	473	877	493	777

(注1) 「エクスポージャー」とは、リスクにさらされている資産(オフ・バランスを含む)のことをいい、主なものとしては貸出金や有価証券等が該当します。

(注2) 「3ヵ月以上延滞等」とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している債務者にかかるエクスポージャーおよび「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことです。

(注3) 「その他」には、現金および上記以外の資産(固定資産等)が含まれます。

5. 派生商品取引および長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当する取引はありません。

6. 証券化エクスポージャーに関する事項

該当する取引はありません。

7. 出資その他これに類するエクスポージャーに関する事項

(1) 出資その他これに類するエクスポージャーに関するリスク管理の方針および手続の概要

「出資その他これに類するエクスポージャー」とは、主に貸借対照表上の有価証券勘定および外部出資勘定の株式または出資として計上されているものであり、当JAにおいては、これらを①グループ会社および関連会社株式、②その他有価証券、③系統および系統外出資に区分して管理しています。

- ① グループ会社については、経営上も密接な連携をはかることにより、当JAの事業のより効率的な運営を目的として、株式を保有しています。これらの会社の経営については毎期の決算書類の分析の他、毎月定期的な連絡会議を行う等適切な業況把握に努めています。
- ② その他の有価証券については中長期的な運用目的で保有するものであり、適切な市場リスクの把握およびコントロールに努めています。具体的には、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析およびポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会で運用方針を定めるとともに経営層で構成するALM委員会を定期的開催して、日常的な情報交換および意思決定を行っています。

運用部門は理事会で決定した運用方針およびALM委員会で決定された取引方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引については企画管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

③ 系統出資については、会員としての総会等への参画を通じた経営概況の監督に加え、日常的な協議を通じた連合会等の財務健全化を求めており、系統外出資についても同様の対応を行っています。

なお、これらの出資その他これに類するエクスポージャーの評価等については、①グループ会社については、取得原価を記載し、毀損の状況に応じてグループ会社等損失引当金を、②その他有価証券については時価評価を行った上で、取得原価との評価差額については、「その他有価証券評価差額金」として純資産の部に計上しています。③系統および系統外出資については、取得原価を記載し、毀損の状況に応じて外部出資等損失引当金を設定しています。また、評価等重要な会計方針の変更等があれば、注記表にその旨記載することとしています。

(2) 出資その他これに類するエクスポージャーの貸借対照表計上額および時価

(単位:百万円)

区 分	29 年度		30 年度	
	貸借対照表計上額	時価評価額	貸借対照表計上額	時価評価額
上 場	11,432	11,432	12,539	12,539
非 上 場	77,150	77,150	74,343	74,343
合 計	88,583	88,583	86,882	86,882

(注1) 「時価評価額」は、時価のあるものは時価、時価のないものは貸借対照表額の合計額です。

(3) 出資その他これに類するエクスポージャーの売却および償却に伴う損益

(単位:百万円)

29 年度			30 年度		
売却益	売却損	償却額	売却益	売却損	償却額
126	-	100	156	-	504

(4) 貸借対照表で認識され、損益計算書で認識されない評価損益の額

(保有目的区分をその他有価証券としている株式・出資の評価損益等)

(単位:百万円)

29 年度		30 年度	
評価益	評価損	評価益	評価損
1,256	-	2,031	-

(5) 貸借対照表および損益計算書で認識されない評価損益の額

(グループ会社の評価損益等)

(単位:百万円)

29 年度		30 年度	
評価益	評価損	評価益	評価損
-	-	-	-

8. リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

(単位:百万円)

	29年度	30年度
ルックスルー方式を適用するエクスポージャー	12,000	24,000
マンデート方式を適用するエクスポージャー	-	-
蓋然性方式(250%)を適用するエクスポージャー	-	-
蓋然性方式(400%)を適用するエクスポージャー	-	-
フォールバック方式(1250%)を適用するエクスポージャー	-	-

9. 金利リスクに関する事項

(1) 金利リスクの算定手法の概要

金利リスクとは、金利変動に伴い損失を被るリスクで、資産と負債の金利または期間のミスマッチが存在する中で金利が変動することにより、利益が減少ないし損失を被るリスクをいいます。

当JAでは、金利リスク量を計算する際の基本的な事項を「金利リスク量計算要領」に、またリスク情報の管理・報告にかかる事項を「余裕金運用等にかかるリスク管理手続」に定め、適切なリスクコントロールに努めています。具体的な金利リスク管理方針および手続については以下のとおりです。

◇リスク管理の方針および手続の概要

- ・リスク管理および計測の対象とする金利リスクの考え方および範囲に関する説明

当JAでは、金利リスクを重要なリスクの一つとして認識し、適切な管理体制のもとで他の市場リスクと一体的に管理をしています。金利リスクのうち銀行勘定の金利リスク(IRRBB)については、個別の管理指標の設定やモニタリング体制の整備などにより厳正な管理に努めています。

- ・リスク管理およびリスクの削減の方針に関する説明

当JAは、リスク管理委員会のもと、自己資本に対するIRRBBの比率の管理や収支シミュレーションの分析などを行いリスク削減に努めています。

- ・金利リスク計測の頻度

毎月末を基準日として、四半期ごとにIRRBBを計測しています。

◇金利リスクの算定手法の概要

当JAでは、6つの金利ショックシナリオ(上方パラレルシフト・下方パラレルシフト・スティープ化・フラット化・短期金利上昇・短期金利低下)ごとに定められた将来期間に応じた金利ショック幅により、どれだけ損失が出るか算出を求め、最大となったものを金利リスク量とみなして四半期ごとに算出しています。

- ・流動性貯金に割り当てられた金利改定の平均満期

要求払貯金の金利リスク量は、明確な金利改定間隔がなく、貯金者の要求によって随時払

い出される要求払貯金のうち、引き出されることなく長期間金融機関に滞留する貯金をコア貯金と定義し、①過去5年の最低残高、②過去5年の最大年間流出量を現残高から差し引いた残高、③現残高の50%相当額のうち、最小の額を上限とし、0～5年の期間に均等に振り分けて(平均残存2.5年)リスク量を算定しています。

流動性貯金に割り当てられた金利改定の平均満期は1.25年です。

- ・流動性貯金に割り当てられた最長の金利改定満期
流動性貯金に割り当てられた最長の金利改定満期は5年です。
- ・流動性貯金への満期の割り当て方法(コア貯金モデル等)およびその前提
流動性貯金への満期の割り当て方法については、金融庁が定める保守的な前提を採用しています。
- ・固定金利貸出の期限前返済や定期貯金の早期解約に関する前提
固定金利貸出の期限前返済や定期貯金の早期解約について考慮していません。
- ・スプレッドに関する前提(計算にあたって割引金利やキャッシュ・フローに含めるかどうか)
一定の前提を置いたスプレッドを考慮してキャッシュ・フローを展開しています。なお、当該スプレッドは金利変動ショックの設定上は不変としています。
- ・内部モデルの使用等、 Δ EVEおよび Δ NIIに重大な影響を及ぼすその他の前提、前事業年度末の開示からの変動に関する説明
内部モデルは使用していません。
- ・計測値の解釈や重要性に関するその他の説明
該当ありません。

◇ Δ EVEおよび Δ NII以外の金利リスクを計測している場合における、当該金利リスクに関する事項

- ・金利ショックに関する説明
リスク資本配賦管理としてVaRで計測する市場リスク量を算定しています。
- ・金利リスク計測の前提およびその意味(特に、農協法自己資本開示告示に基づく定量的開示の対象となる Δ EVEおよび Δ NIIと大きく異なる点)
特段ありません。

(2) 金利リスクに関する事項

(単位:百万円)

IRRBB1:金利リスク					
項 番		イ	ロ	ハ	ニ
		△EVE		△NII	
		29年度	30年度	29年度	30年度
1	上方パラレルシフト		7,992		498
2	下方パラレルシフト		0		20
3	スティープ化		8,238		
4	フラット化		2,073		
5	短期金利上昇		2,991		
6	短期金利低下		3,078		
7	最大値		8,238		498
		ホ		へ	
		29年度		30年度	
8	自己資本の額			52,411	